

思ふ画
徳
徳



安政回己の

土佐長母 閑遊社

辰北の

をさる心をもむの妻そり

株上の録もやんきもあやう
川子

長き夜とてふこころは月
至純

肥田の短とほあ
枝禱

白ゆめにあつてまうく
只美

一寸直りたけぬ
後白

青空の鶴も鶴はめい
竹逆

を遠くはるかにまをた
風歌

二方角も配所のゆも定らん
雨竹

花をまねて出る月六輪も
喜耕

兄のあはれに魂をい
狐不

儒仙老花は仙詩の妻
海法

大坂の地物事だ
早

あけのぼる
茶道

柳の葉のゆき
東光

射るるの的やまを
命途

清き水はのえあり
お花

せんごにたかふ
只喜

あはれを
仙詩

大坂の地物事だ
後白

柳の葉のゆき
西舟

小舟下り
枝禱

こころに
喜耕

あはれを
金泉

あはれを
法音

あはれを
川子

文音

川舟やの心もた
松窓

三佛
松窓



